

！チャレンジ！

家庭菜園



育苗管理が肝心

キャベツなどのアブラナ科野菜は夏まき栽培が一般的です。しかし、低温期に種まきをする春まき栽培では、早期に花茎が伸びて収穫できないことが起きます。適切な品種を選び、苗作りでの温度管理を上手にすれば、初夏に収穫する作型を成功させることができます。

栽培カレンダー ●種まき ●苗作り ▲植え付け ー生育 ー収穫

月	1	2	3	4	5	6	7
冷涼地		●	●	▲	ー	ー	
中間地	●	●	▲	ー	ー		
暖地	●	●	▲	ー	ー		

1 品種

とう立ちしにくい晩抽性と収穫期の高温を避けられる早生性を兼ね備えた品種を選びましょう。

柔らかくジューシーな春系の「春波」(タキイ種苗)、「中早生二号」(サカタのタネ)などがお薦めです。

2 苗作り

発芽温度は、おおむね5～35度で、適温は20～25度です。その後の温度は、日中15～20度、夜間5～10度を確保します。そのため、トンネル内に温床マットなどで温床を作り、最低10度を目安に加温しますが、日中は25度以上に上がらないように換気をします。(図1)

7.5～9cmポリポットに3、4粒まきし、本葉2枚で1本とし、本葉5、6枚の大苗に仕上げます。(図2)

図1 加温育苗

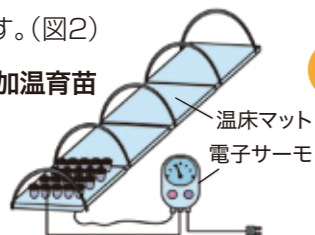
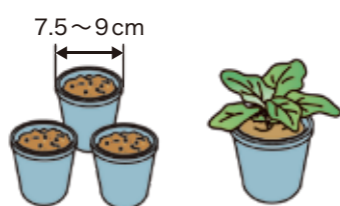


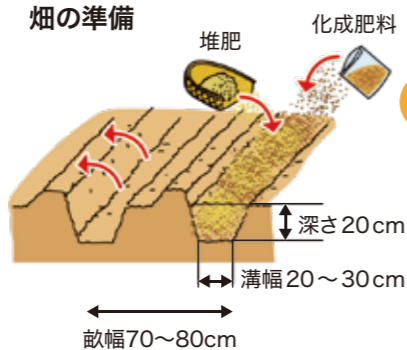
図2 苗作り



3 畑の準備

畑1平方m当たり苦土石灰100g程度をまいて、よく土を耕します。畝幅70～80cm、深さ20cmの溝を掘り、この溝1m当たり堆肥1kgと化成肥料(NPK各成分10%)100gを施し、土とよく混ぜて畝を立てます。

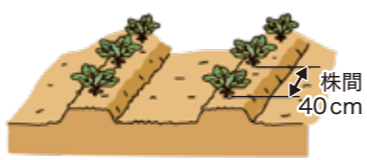
畑の準備



4 植え付け

時期はソメイヨシノが開花する頃(気温10度以上)に、株間40cmに植え付けます。

植え付け



5 追肥

結球期まで肥効が残らないように、定植後2週間程度で株の周りに化成肥料を1株当たり10gくらいまいて、株元に土寄せします。

6 病害虫の防除

気温が上がるとアオムシ、コナガの発生が多くなるので、BT剤などで防除します。

7 収穫

球が固く締まる前に早めに収穫します。



監修：園芸研究家／成松次郎

※ 関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



営農販売部 営農課
課長補佐

トップ営農指導員
さいとう かつとし
齊藤 勝俊



スマート農業を実現する ほ場・栽培管理支援システム

農業の担い手不足の中、現状の水田面積を維持するためには一人当たりの作業面積が大幅に増える試算があり、農業分野においても労働生産性の向上が不可欠です。そのため、さまざまなスマート農業やシステムが開発され、積極的な活用が進められています。今回はJA全農が進めるスマート農業システム「Z-GIS」と「ザルビオ」を紹介いたします。現在は、なんすん地区で「するがの極」の生産管理に活用しています。

営農管理システム「Z-GIS」
JA全農が開発したシステムで、ほ場情報データとインターネットの電子地図とを関連付け、データをクラウド上に記録・管理して、ほ場と栽培情報を可視化したシステムです。無人ヘリによる共同防除で、ほ場地図の電子化により効率的な地図作成、クラウドによるデータ共有機能、連続印刷などの印刷機能により作業指示や作業計画もパソコン上で簡単にできるようになりました。

栽培管理支援システム「ザルビオ(xarvio) フィールドマネージャー」
衛星画像データで生育状況の確認と人工知能(AI)により、ほ場データを分析し、生育ステージを予測、可変施肥や適期施肥・防除を実現させ、最適な管理を提案します。生育管理では、生育マップを使い、ほ場内で生育が悪い場所を特定してピンポイントで追肥することで、均一化による収量アップ、生育ステージの予測による防除・施肥の作業時期を逃さない適期管理に活用されています。「Z-GIS」と「ザルビオ」の2つのシステムを連携させることで、より効果的な管理体制が可能です。

低コストで始められるプラン
「Z-GIS」は、1000ほ場・1年間26400円で、お試し版も用意されています。「ザルビオ」は作物により異なりますが、水稲(生育・地力・雑草・土壌マップ+生育ステージ予測)は基本料



「Z-GIS」で登録したほ場と「ザルビオ」システムをリンクさせAIによる生育予測、病害虫予測などをリアルタイムで確認

お問い合わせ

同システムについて詳しくは、営農販売部営農課 担当：齊藤までお気軽にお問い合わせください。

電話 0555-5167-8030

金2ヘクタールまで1年間1万3200円で、生産者向けの5%割引クーポンコードもあります。